

パーキンソン病について No9



話題の新薬 ルパフィン錠

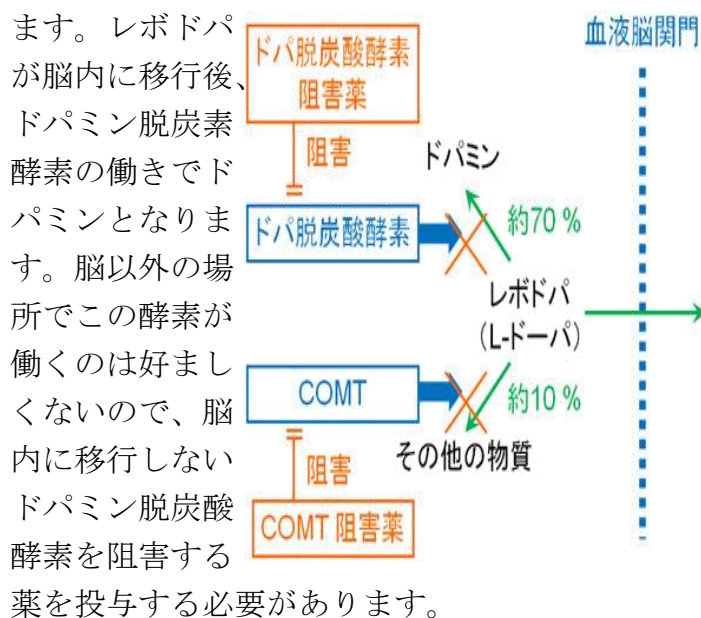
アレルギー性疾患治療剤

パーキンソン病の薬物治療について

ドパミン製剤・脱炭酸酵素阻害薬・COMT 阻害薬

① 作用

パーキンソン病はドパミンを投与することが基本となりますが、ドパミンのままでは脳内へ移行しません。レボドパという形での投与が必要になります。



レボドパが脳内に移行後、ドパミン脱炭酸酵素の働きでドパミンとなります。脳以外の場所でこの酵素が働くのは好ましくないため、脳内に移行しないドパミン脱炭酸酵素を阻害する薬を投与する必要があります。

又、レボドパの代謝のうち、約10%はCOMTが関係しているといわれています。そこで、COMT阻害薬も配合し、レボドパの作用をより強化しています。

② 特徴

神経のバランスを調節し運動機能を改善します
ウェアリング・オフ現象を改善します

③ 薬剤名

- スタレボ配合錠 L50・L100 (レボドパ含有量)
1回 1~2錠 (1日8回まで)

④ 副作用

日常生活に支障を生じない程度のものですがジスキネジアがみられることがあります

田辺三菱は、アレルギー性疾患治療剤「ルパフィン錠10mg」を販売した。本剤は、選択的ヒスタミン H1 受容体拮抗作用に加えて、ケミカルメディエーターの一種である血小板活性化因子 (PAF) に対する拮抗作用などにより、抗アレルギー作用を示す。12 歳以上の小児および成人に 1 日 1 回経口投与する第二世代抗ヒスタミン剤であり、既存の抗ヒスタミン剤と同様に、アレルギー性鼻炎、蕁麻疹、皮膚疾患に伴うそう痒に対する治療選択肢の一つとなると考えられる。通常、1 回 10mg を 1 日 1 回経口投与する。なお、症状に応じて、1 回 20mg に増量できる。

薬価 1錠 = 69.4円

副作用情報 ニューモボックス NP

MSD から販売されている肺炎球菌ワクチンの「ニューモボックス NP」は、注射部位壊死および注射部位潰瘍に関連する国内症例が7例報告されたことから「重大な副作用」の項に「注射部位壊死、注射部位潰瘍」が追記された。

高齢ドライバー免許更新



警察庁は来年度から、70歳以上の高齢ドライバーが運転免許更新時に受講する高齢者講習で、新たな視野検査を試験導入することを決めた。視野障害は高齢ドライバーによる事故原因の一つとされており、同庁は正式導入についても検討を進める。視野障害は、視界の一部が見えなくなる症状で、自覚しないまま進行することが多い。症状が進行すると、信号を認識できなくなるなどの影響が指摘されている。視野が狭くなる緑内障は、40歳以上の20人に1人が患っているとされる。現行の高齢者講習でも水平方向の視野検査が実施されているが新たに開発した視野検査器は上下方向も検査でき、精密な判定が可能という。

